

6人中

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

6人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			時間差での通所や屋外での活動を利用する。常に整理整頓をしスクリーンも設置しスペース確保にと止めている。
	2	職員の配置数は適切であるか	83%	17%		基本よりも多く配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%			ティーチ療育を基本として視覚化を図っている。スロープや引き戸等バリアフリー化されている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			業務改善会議にて全職員が関わるようにしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%			ポジティブな内容は更にサービスを目指しネガティブな内容は改善していけるようにミーティングで検討する等、努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	83%		17%	ホームページで公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		17%	83%	今後の課題である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			毎月の事業所内研修及び年に数回ではあるが外部研修の機会を確保している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			ガイドラインの項目にのっとったアセスメント用紙を事業所独自で作成している。また、児童及び保護者さんのニーズも聴取しニーズへ昇華して作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			アセスメントBOXの活用。ガイドラインに沿った内容でアセスメントを作成(事業所独自)し取り組んでいる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			計画を遂行するにあたってのプログラムを週案や個別的支援の手段をもって立案し遂行している。個人に合わせた活動プログラムや小集団活動も設定している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			計画を遂行するにあたってのプログラムを週案や個別的支援の手段をもって立案し遂行している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	50%	50%		放デイは土曜日だけの運営のため週1で達成できる課題設定をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%			1日の中で双方を組み合わせ提供をしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			朝のミーティングを主として左記の内容を確認し周知を図っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	67%	33%		「この活動での手ごたえはどうであったか」「工夫点はないか」等を話し合う場はあるが概ね問題がなかった場合はミーティングで話している。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%			連絡帳・日常記録・児発管記録等の記録を取り支援会議の場などで検証している。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			基本的に6カ月に1度のモニタリングをしている。(状況により6カ月より早い場合もあり)
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	100%			基本的日常生活動作の習得の為の訓練の他、創作活動やダンスなど各種プログラムを作成している
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	34%	33%	33%	この1年間では担当者会議に出席歴なし。又、相談所を利用している児童なし。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	33%	67%		土曜日は学校が休業である為実績がないが過去には行っていた。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	—	実績がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	67%	33%		求めに応じて行えるが実績はなし。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	67%		33%	実績なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	83%	17%		事業所2階のしゅしゅとの合同研修有。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			100%	実績なし。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	34%	33%	33%	区の子ども部会が開催する研修には参加するように努めている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			利用後の送迎の際や個別的な電話相談等を行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	17%	17%	66%	上記の取り組みは行っているがペアレント・トレーニングの支援は行っていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			契約時に行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			利用後の送迎の際や個別的な電話相談等を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	17%		83%	行っていない。年に1度のガイドラインの聞き取りの際に希望されないケースが多い。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%			出来る限り取り組んでいる。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			あんじゅ便りで月の予定と前月の様子を伝えている。その他、必要時にお便りを発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	100%			書類紛失予防及び対処としてフルネーム記載を廃止する等、注意に努めている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			時には児童の行動を分析の上、代弁として助言を行うことあり。又、保護者さんの意向をまとめて確認を取る事もあり。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	33%	17%	50%	回覧板を利用する等で地域に発信を行っている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%			研修の際に見直しを行ったり、その後の情勢に応じて対応している。(児童の降車確認装置等)
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			避難訓練を年2回。マニュアルは策定済み。契約時にお伝えしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%			年に2回事業所内研修と毎月委員会を設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100%			契約時に万が一が起こりえる事として伝えており、可能性の一部として計画書に記載している。ただ、身体拘束の事例は一件もなし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	67%	33%		医師の指示書を有する児童無し。過去には対応歴あり。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%			作成し研修にも取り入れている。